

個人山行報告書

通算山行 NO	NO. 1400	報告者	後藤隆徳
年 月 日	2010年02月21日 (日・快晴)	2万5千	八ヶ岳西部
山 名	八ッ・硫黄岳 (2742m)		
体力度=3・普通 技術度=3・普通 道標=ある 駐車場=ある・赤岳山荘 トイレ=ある・赤岳山荘 展望度=よい 三角点名=箕冠 等級=三等 往復距離=350Km 駐車場=赤岳山荘(1000-)			
<h2>スキッと上ろう硫黄岳</h2>			
コース とタイム	下土狩5:15—小淵沢IC7:06—美濃戸赤岳山荘駐車場出発8:00— 赤岳鉱泉9:45—赤岩の頭11:30—硫黄岳頂上12:00—赤岩の 頭(昼食)12:20~40—赤岳鉱泉13:25~35—駐車場14:30— 下土狩18:20		
標 高 差	上り 赤岳山荘約1680m~硫黄岳2741m=約1061m 下り //		
参 加 者	L後藤隆徳(62)、ほか3名		



週末は好天だった。2月恒例の八ヶ岳に出掛ける。今回は硫黄岳。美濃戸から赤岳山荘の道は程よい新雪がのって全く問題がなかった。

赤岳山荘の駐車場は満杯状態で入山者が多いことを窺わせる。ここでトイレに入った仲間が外から鍵が掛ってしまい出られなくなるハプニング。

ここから北沢の道を辿る。北沢は南沢に比べ傾斜が程良く

歩き易い。樹林帯を抜けると横岳が屏風のように広がった。

すでに春を感じさせる陽光は光り輝き眩く、ますます登行意欲を増させた。2時間弱で赤岳鉱泉着。10mほどの人工氷瀑があり何人か練習をしていた。青白い美しい氷にアイゼンを刻む。掘立小屋があり、ストーブも完備されていた。

小休後、北上しなすは赤岩ノ頭を目指す。ラッセルは完璧でむしろ夏より歩き易い。樹間から次第に赤岳・阿弥陀岳が顔を出す。目を凝らせば、文三郎道を上る姿が見える。ここからだ随分傾斜が急だ。朝上った人が沢山降りてくる。

森林限界を抜けると赤岩ノ頭の急傾斜。抜ける所には雪庇が張り出している。ここは以前、雪崩事故があった場所で要注意。雪崩は同じ場所で発生するからだ。

頭に出ると、今度は北面の大展望が広がる。今日は本当に素晴らしい天気。南アルプス・御岳・乗鞍・焼・穂岳連峰・蝶・常念・後立山・白馬が手に取るようだ。

ここから頂上は近い。いい感じの稜線を一步一步辿る。これまでの苦勞が報われる一瞬。雪山登山の醍醐味を感じる時だ。

久しぶりの硫黄岳頂上。少し風があつて寒い。頂上のセレモニー・・・私の誕生日の平成22年2月22日をピースサイン5ツで作った・・・を済ませ風のない赤岩の頭に戻って昼食。

下山の雪道は膝に優しくルンルン。鉱泉には、韓国の方が多かった。小淵沢の道の駅でソバを食べたかったが14時終了で残念。

今日で生涯登山回数が1400回。1000回は01年8月。千回以降、400回は102ヶ月で月平均3.9回の実績。

